

議題1「令和3年度大正区運営方針の振り返りについて」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
1	仕事や業務に明け暮れて、事前質問に対応できないということが多々見られたため、それをどうやったら改善できるかということを考え、前もって有志で集まり、意見交換をさせていただきました。それをやることで、事前には出すことができなかったが、この議論でどういった意見を出せるか、こういうふうに思っているという意見が活発に出たので、この機会に、その意見を出していただこうかと思っています。	角元委員		会議に向けての事前の準備をありがとうございます。 事前質問にて記載出来なかったご意見や有志の会で交わされた意見の中で区政会議にて議論を行いたい案件がございましたら、区政会議にてご発言いただければと思います。 また、質疑をいただく際の司会進行にも配慮していきます。	総務課
2	区政には興味はあるけれども、知識不足なところが多々あり、正直、本番ここに来て、なかなか意味が理解できないです。事前に資料を読んでも、なかなか頭に入ってこない、基本的なところの質問をどのタイミングで手を挙げていいのかも、まず分かりません。どの質問のときに、どんな質問をしていいか、分かりにくいなということも、我々学のない若手が質問するには必要なかということを感じております。	南委員			
3	社協さんや民生委員さん、コミ協さん、区政を担っている団体さんがいろいろあると思いますが、やっている仕事のすみ分けがいまいちピンとこない。清掃活動など、それぞれ皆さん区政にとってすごくいいことをしているとありますが、どんどん若手が参画できるような状況を作るためにも、この団体は何をやる場所、どんな役割をしているのか、いつどんな活動をしているのかということを一覧化して、スケジュール表のような一覧を共有できるようにすればすごくありがたいと思いました。我々若手ももっと参加しないといけないのに、なかなかできていない現状がある中、そこを私たちが声をかけて集められるようであれば集めたいです。	南委員	<p><大津 区政企画担当課長> おっしゃるとおりかと思えます。今すぐに全ての団体の説明は出来ませんが、次回の区政会議までには資料を作成し、送付させていただくようにいたしますので、参考にしていただければと思います。</p> <p><堀江委員> 地域の連合会長をさせていただいております。三軒家東のことしか分かりませんが具体的に言いますと、総会の書類には1年間の行事、分かる日程のところは何月何日に何をやるということを入れてますが、まだ日が分からないものは、例えば区民祭りに参加とか、大阪マラソンのちょっと前に大阪市内で一斉清掃とかいう形で行事予定を入れてる。今おっしゃった公園の清掃とかは分かっている部分についてはやっています。ですから、地域に発信はしてるんですが、今おっしゃるような、なかなかそれが浸透していないことは我々も反省しないとはいけません。2、400世帯ほど全部刷りまして、送らせてもらってますので、それなりに町会さんはやっていると思います。</p>	<p>主な地域団体について、別紙一覧表を作成しましたので、ご参考にしていただければと思います。 また、今年度より、大正区広報紙「こんにちは大正」に“地域(大正区)のイベントニュース”という欄を設けましたので、ぜひご参照ください。</p>	総務課

議題1「令和3年度大正区運営方針の振り返りについて」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
4	<p>【書類番号3】2ページ目について、もともと私からの質問は、コロナの影響はどの区も同じであり、魅力発信が難しかったことで流出が抑えられなかったわけではないと考えました。そこに対する回答で気になったのが、「他区と同様の広報を行ったもの」というところがあるんですが、他区と同様の広報を行っても仕方がないのではということと、それは大正区の魅力発信にはなっていないはずで。</p> <p>なので、前期から私はずっと言っていますが、結局、コロナの影響というのは、言い訳に使われがちであり、もう少し「なぜ」ということの分析が足りないのではと思っています。なぜ人口って流出しているんでしょうか。現段階での見解はありますか。</p>	石田委員	<p><村田 副区長> 大正区の人口は昭和40年には9万5,000人、今6万人です。大きな会社がなくなってきたのが人口が減った大きな原因の一つです。重厚長大産業であった産業構造でしたが、その変化に伴って工場が縮小し、それに伴い社宅もなくなりました。</p> <p>住む人もいなくなると、その人たちを相手に御商売されているお店、事業所さんもなくなります。事業所さんがなくなると、その事業所さんで働いている人たちもいなくなる。そういう状況で人口が減ってきたのが大きな原因と考えています。</p> <p>日本では人口減少社会に入ってますが、人口が減っていく中で、どのように持続可能性があるまちにしていけるかというのが、今日的なテーマと考えています。</p> <p>現行の将来ビジョンを検討した際に、大阪市の270万人の人口を24区でパイの奪い合いをするのが良いことなのかという議論をいたしました。大正区としては増えてほしいよねということをお考えしました。</p> <p>ただ言い訳にしかならないというのはおっしゃるとおりです。</p> <p>以前、エイサー祭りに合わせて、大きな綱を与那原町から呼んできて、5万人を呼んだという事業を10年ほど前にやりました。1,500万くらいのお金かけて花火も上げました。このときも数万の人がいらっしやいました。そのほかには河川広場でいろんなイベントも打ったんですけども、全部打ち上げ花火で終わったんです。</p> <p>こういった経緯をふまえて、やはり行事というのは継続しなければならないと考え、継続できるような行事を検討しようと思っていた矢先にコロナになったというのが現状です。</p> <p>当然、魅力発信ということでホームページ、広報紙やSNSなど、一般的によくある他都市でもやっているような取組みはしてはいたけれども、大正区ならではの魅力を発信する、継続的な、まちの日常をちょっと変えてみようという取組みができなかったのかなと思っています。</p> <p>今年は区制90周年という節目の年です。これをきっかけに、「ホットなまちええやん大正」と打ちだして、大正区は「ちょっとええやん」というまちやと思うんです。そこを見直して、新しい大正区のライフスタイルというも提案できればなと、これも打ち上げ花火ではなく、継続できるような取組をしていきたいなと思っています。ということで、ここに書いてる継続的に取り組むことができなかったというのは、そういうことで、90周年をきっかけに継続できる取組をしていきたいなと思っております。</p>	回答済み	地域協働課 (地域協働)
5	<p>そこまで人口減少にこだわる必要はないという感じでいいんですか。</p>	石田委員	<p><村田 副区長> その分、住民税が入りますから人口は増えたほうがありがたいですが、ただ増える、減るだけじゃないというふうに思います。例えば、人口が減っても相続税路線価がある。まちの価値があるということのほうが、実はいいかもしれません。だから、何をメルクマール、指標にするかです。そこをいろいろと考えていきたいと思っています。</p> <p><堀江委員> 三軒家東では人口は多少なりとも増えてきています。しかし、人口は増えても単独、単身赴任用マンションが乱立し、三軒家東の人口は恐らく6,000人ほどになったと思うのですが、4,000世帯近くあります。地域の町会長をして入っていただいているマンションも含めまして、2,300か400くらいです。</p> <p>我々のところでも増えたら増えたなりの悩みで、個人や、会社の借り上げ寮のようなのがどんどん増えてきてまして、いいような、困ったような。例えば、同じように道路などを使うわけですから、町会費を例え100円でもいただきたいと言っているのですが、全く話にならない業者もあります。そこが悩みで、あと5年先、10年先どうなるのかなという気持ちは正直あります。地域の運営としては、非常にいいような悪いようなということですが。</p> <p><村田 副区長> 大正区でも人口が増えている地域がございます。三軒家西と三軒家東は人口が増えているんです。三軒家西は実はマンションが建設されて増加したということではなしに、昔の古い家が建て替わって、新しく代替わりして、近くの人が独立して住んでいらっしやいます。そういうところで人口が増えてきて、子供の数も増えてきています。</p> <p>今おっしゃっているように人口が増えるだけが、先ほど申し上げました持続可能性のあるまちにつながるのかどうかというのは、今後皆さんと一緒に考えたいなと思います。</p>	回答済み	地域協働課 (地域協働)

議題1「令和3年度大正区運営方針の振り返りについて」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
6	<p>工場が減ったから人が減ったという、すごく分かりやすいお話をいただきましたが、では工場が増えたら人が増えるのかという、すごく分かりやすいロジックになってしまうと思います。大阪市がする話なのか、府がする話なのか分からないですが、逆にそういう工場誘致のようなことはしないのでしょうか。</p> <p>例えば尼崎市は、従業員さんの家賃補助を出したり、少し前までとても手厚いことをして工場誘致をやっていたと思います。そういうところが今のところ大正区にはあまり見られないような気がします。</p> <p>我々、大正区、港区にある鉄工所も正直、手狭だからどこか広いところに行きたいとか、どこか工業地にしてきてみんな密集してやれば、やりやすかったりするのかなとか。そういう情報や、そういう方針などが見えていけば今後、あそこに行こうかというのも見えてくるのかと思うのですが、あまり小さい鉄工所が行っても意味がないのでしょうか。</p> <p>また、大きい鉄工所がなくなり、その後、住宅地になることもあると思いますが、何かしらの産業はそこに入っているのですが、それで人口は減ってしまうのでしょうか。</p>	南委員	<p><村田 副区長> 工場誘致によってエリアの価値が上がるのであれば、そういった手法をとればいかと思います。 そのためには、工場誘致をすることでエリア価値を上げるというコンセンサス、区民のみなさんの合意が得られることが必要と思います。</p> <p>一方で、小さくて伝統的に技術力を持っている工場さんは、まだ綺羅星のように大正区にあると思いますので、そういう工場とは、ぜひ一緒にまちづくりをできたらなと思っています。</p> <p>大きい工場がなくなると人口が減っているのは事実です。例えば、大きな工場がなくなった地域では人口が減っています。</p>	回答済み	地域協働課 (地域協働)
7	<p>昔、平松前市長が西淀川区で大規模工場が撤退した後は工場しか建ててはいけない、マンションを建ててはいけないという条例を一度作ったと思いますが、そういう条例はもうなくなっているのでしょうか。工業会的には、「おっ、平松さん、やりよったな」と思って見ていたのですが、そういうものは市長クラスの話でしょうか。</p>	南委員		<p>建築物の用途・規模・形態などの規制や誘導を通じて、市街化区域内の土地利用の方向付けを行うために都市計画で用途地域が定められています。用途地域は土地利用の現状や動向、市街地整備や都市施設の整備の状況等を勘案して決定されます。大阪市では、計画調整局が担当しております。</p>	地域協働課 (地域協働)
8	<p>昭和60年前後、各地区の学校に大体700から800、多いときは1,000名くらいの児童がいましたが、今現在は小学生が平均で200名です。ということは、10の連合で平均200名いても、2,000名です。昔は7,000、8,000名いたわけです。小学生だけが減ったのではなく、多分、戸数はそんなに減少してないと思います。1家族で4人や5人の世帯が沢山あったところが、子供が独立してよそにいき、残ったのは高齢者。戸数は減ってないけれども、人口はがた減りしている、少子化の最たる姿です。企業も確かに多くない。工場があれば、その工場に働く場所を求めて若い人が残るといったことがあったと思うんですけど。少子化の率のほうが、人口減少に歯止めがかからない最大の原因じゃないかと思います。</p>	大石委員		<p>総務省が発表している全国人口動態調査では、ここ数年総人口が減り続けており、日本全体で人口減少社会に入っていると言えます。大阪府でも総人口が減少傾向にあり、大正区も例外ではありません。人口減少の要因は一つだけではなく様々であり、委員ご指摘のとおり少子高齢化も大きな要因と考えます。</p> <p>新しいビジョンを作るにあたっては、こういった人口減少社会においていかに持続可能な社会（コミュニティ）を維持していくのかといったことについても検討してまいりたいと考えています。</p>	総務課

議題1「令和3年度大正区運営方針の振り返りについて」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
9	<p>人口が増えればいいというわけではないという前提で、呼びたいのは子育て世代じゃないかと思えます。各人口分布、年齢分布が均等にいけば、持続可能なまちに近づくと思えます。ファミリー層向けのマンションが沢山できてほしいですが、ことごとく単身用で、不動産屋から「そんなだけまちに魅力がないと判断されているんです」とはっきり言われました。</p> <p>子育て世代にとって魅力のあるまちに見せていかないといけない中で「大正区版ネウボラ」は、すごくいい取組かと思うのですが、意見交換の場を設けるため、区政会議の場に教職者の方などをオブザーバーで呼べたりするのでしょうか。細かい話は区政会議で話し合うことではないかもしれませんが。</p>	土井委員	<p><前田 ことも・教育担当課長> 教職者の関与について、区政会議とは別で総合教育会議という会議がございまして、そこで教育や子育てを含めて、広く議論をさせていただいているところでございます。</p> <p><村田 副区長> 区政会議で出た意見につきましては必要に応じて総合教育会議で議論させていただくこととなります。 総合教育会議には、PTAとか子育て支援をやっている地域の皆さんとか、そういう人たちに入らせていただいておりますが、そこに例えば、学校の事情はどうかとか含めて、その会議に質問を投げかけていただくという、そういう立てつけになっていると思えます。</p> <p><大津 区政企画担当課長> 総合教育会議で出た意見を区政会議で皆さんに諮る場合もありますし、区政会議で出た意見を逆に区政会議の場で諮るというのもありかと思っております。</p>	<p>区政会議においては、大正区区政会議傍聴要領に基づき、定員内であれば傍聴は可能であります。傍聴者は「会議開催中は静かに傍聴することとし、発言、拍手その他の方法により公然と意見を表明しないこと」としております。</p> <p>現在策定中の「大正区将来ビジョン2025」において、区政会議をより活性化させるため、既存の会議体（「大正区総合教育会議」「大正区地域福祉推進会議」）で出された意見について、これまで以上に共有や議論を行える仕組みを考えているところでございます。</p>	総務課
10	<p>総合教育会議では、オブザーバーで参加するということが可能ですか。また、その会議の内容というのは、フィードバックされますか。それとも今までどおり、区役所等のホームページに議事録として挙がるという形でしょうか。</p> <p>その会議のほうに、区政会議でこういう質問もありましたということを出していただくことは可能でしょうか。</p>	角元委員	<p><大津 区政企画担当課長> 総合教育会議にオブザーバーでの参加は可能です。次回は7月に1回目の総合教育会議が開催されますが、今回は10人ほど傍聴は可能となっております。 総合教育会議で出た議事録や資料等も含めて、すべてホームページでフィードバックはさせていただいております。</p> <p>区政会議で出た質問について、総合教育会議でお伝えするようにします。</p>		
11	<p>そういう会議や地域のイベント事、清掃活動などのスケジュールを公表することはないのでしょうか。例えば、大正区役所発信のLINEなどで、何月何日は泉尾東地区、何月何日は三軒家東地区が何時から何時まで清掃活動をやりますなど、月間ごとにこういう活動があるということを公表すれば、より興味を持つのではと思ったのですが、いかがでしょうか。</p> <p>各エリアごとにすばらしい活動をしているのですが、ほかの地域の方が、その活動をしていることを知らないというのを聞いたことがあったので、各地域ごとにやっていることを「ああ、そんなことやってたんや。こういうことをうちもやってんねんや」という風にどんどん共有すればいいのではと思いました。</p> <p>堀江会長のようにそれを長年されていた方に、私たちがみたいな働いて、「結局、ボランティア活動とかほとんどしてへんやん」と言われたらそれまでなんです。そういう情報があったら見に行く機会が増えてくると思えます。そういうツールが一つのきっかけになれば、1人、2人と増えてくるんじゃないかと思って意見させていただきました。</p>	角元委員	<p><村田 副区長> 各地域の大きな行事については、例えば夏祭りなどは広報紙に載せていますが、今年度からはできるだけ他の行事も載せようと考えています。 しかしながら、例えば子育てサークルや、食事サービスや、100歳体操などの地域の様々な行事を10地域全て網羅して、区役所でお知らせするというのは、我々が把握していない行事も多くあり、なかなかできないのが現状です。 各地域で何かそういう事業がないのかということでしたら、もしよければ、例えば角元委員が三軒家東でまちづくり実行委員長の堀江会長にお聞きになるとか、地域の皆さんに聞いていただくのが一番分かりやすく早く、正確だと思います。</p> <p><古川 区長> 情報拡散という意味では、皆さんにフォローしていただけるかということにかかっておりますが、LINEだけではなく、最近は各地域ごとにSNSが増えてきています。SNSのフォローの仕方も「こんにちは大正」にQRコードを載せるなど、一発でフォローできるようにしていますので、もし御興味があれば、そういう形でご確認ください。毎回載っているわけではないですが、地域活動協議会特集の際などには必ず載せてます。 私も「泉尾東e回覧」など、回覧板ベースの情報までフォローしていますが、1回、自分のスマホにそういう入り口を取り込んでしまえば、よその地域の情報も見れますので、研究してみてください。</p>	<p>地域活動のうちイベント等に関するお知らせについては、今年度より、大正区広報紙「こんにちは大正」に「地域(大正区)のイベントニュース」という欄を設けましたので、併せてご参照ください。</p>	総務課

議題2「要援護者に対する日頃の見守り体制づくりについて」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
1 2	<p>要援護者名簿を基に訪問をしたいと思うのですが、何もないのに「どうですか」と訪問するのも少し違うかなと思います。以前に社協からマスクを配付してくださいといただいたときには、推進員さんと一緒にお訪ねし、マスクをお渡ししたということもあります。</p> <p>また、台風の後、私の場合は全員に「どうですか」とお電話をしたんですが、なかなか信じていただけない。私の名前と民生委員であり、「安否確認のためのお電話です」ということをきちっと言いつつ、「何か困ったことはないですか。困ったことがあれば役所に通じますので」とそこまで言わないと、なかなか信用もしていただかず、本当に困ったなと思いました。</p> <p>お預かりしている要援護者名簿が宝の持ち腐れにならないように、しっかり活用していきたいと思うのですが、名簿に載っている方は、御病気の方も重症の方であったり、とても介護が必要な方であったりということで、もう少し日常的に見守りたいというときは、老人の給食というのがあります。お訪ねして「大丈夫ですか」と言ったら、一生懸命おしゃべりして下さるんです。そういう簡単な見守りというものもしております。</p>	仲田委員	<p><嶋原 保健福祉課長> いろいろな機会を捉えて事業周知を行っており、同意確認時に案内もしているところですが、引き続き事業周知を図るとともに同意確認の案内時には、できるだけよく分かるように周知していかなければいけないと思っています。地域の皆様は、この名簿ができる以前から気になるご家庭、特に高齢の方の見守りをされています。食事サービス事業時にも確かに見守りの一種になりますし、会って話をするといいもの、見守り安全確認もでき、その方にとってすごくいいことかと思っています。</p> <p>また、名簿につきましては、協定書を結んだ後に一緒に考えていきたいと思っております。</p>	回答済み	保健福祉課 (福祉)
1 3	<p>「民生委員さんが回ります」と事前に伝えても、電話にあまり出ないほうがいいと家庭で話をしているみたいで、なかなか通じない。災害のときじゃなくても声をかけたいけれども、どこまで声をかけていいのかわからない。最初に要援護者の話をすると、「そういう人が回ってもいいですか」ということを話してもらいたい。来てほしくないという方もいて、本人と直接会えなかったり、知らん顔して寝たふりをされたりと、話しかけるのがなかなか難しいので、まずは見守り推進員と民生委員が行きますとか、今度はまちづくりの方が行くとか、そういうことをまず最初に立ち上げるときに、区役所で調べてから、周知をしていただきたいと思っております。</p> <p>連携や周知は本当に難しいと思っています。地域ごとに民生委員も区切られていて、覚えきるといのはなかなか難しい。渡すときに、こういう人という話もできたらいいと思います。</p> <p>それと今、配食をしております、やはりそれも見守りと思っております。「元気ですか」など声をかけるようにすると皆さん喜んでくれて、「ありがとうございます」とか、いろいろ会話ができるようになっていきます。その方たちは、要援護者でないかもしれませんが、やはり地域と連携を取っていくということが大事かと思っております、今、進めています。</p>	松村委員	<p><嶋原 保健福祉課長> 名簿は、現在年1回の更新時に、区役所で転居や施設入所、お亡くなりになられた方等を整理したうえで区社協にお渡しし、区社協で新規の方の同意確認等の整理を行ったうえで各地域にお渡ししていることから、整理後からお渡しするまでのタイムラグがどうしても発生してしまいます。名簿の配付後は、地域等で得られた情報を区社協へ情報提供していただき、お互いに情報共有を図っていきたく思いますので、よろしくお願ひします。</p>	回答済み	保健福祉課 (福祉)
1 4	<p>要援護者で亡くなったり、施設に入りましたということが分からなくて、「この人も亡くなっているのに」ということがあります。今、民生や区社協で行方不明者の見守りの発信をしているのですが、その場合は、すぐに見つかりましたという情報が入ります。でも、要援護者は近くにいなくても「あの人、亡くなっているんだわ」というのも分からない状態なので、そういうことも知りたいと思っております。</p> <p>要援護者が亡くなると1年の切り替えで回ってくるんですが、回ってくる時点で、その前にチェックすることでもできるのではないですか。多過ぎますか。</p>	松村委員	<p><嶋原 保健福祉課長> 名簿は、現在年1回の更新時に、区役所で転居や施設入所、お亡くなりになられた方等を整理したうえで区社協にお渡しし、区社協で新規の方の同意確認等の整理を行ったうえで各地域にお渡ししていることから、整理後からお渡しするまでのタイムラグがどうしても発生してしまいます。名簿の配付後は、地域等で得られた情報を区社協へ情報提供していただき、お互いに情報共有を図っていきたく思いますので、よろしくお願ひします。</p>	回答済み	保健福祉課 (福祉)

議題2「要援護者に対する日頃の見守り体制づくりについて」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
15	現状、大正区では要援護者は何名いらっしゃるんですか。	石田委員	<p><仲田委員> 三軒家東では、150名弱の名簿をいただいています。</p> <p><嶋原 保健福祉課長> 10地域ですので、一地域分掛ける10ぐらいですが、地域によって数も異なります。本日は、資料を持ち合わせてませんので、お答えできません。</p>	2,065件（令和3年10月時点）	保健福祉課（福祉）
16	<p>タイムラグがあると、災害のとき「この人を呼びにいかねんけど、おれへんかったやん」というところでワンクッション置かれると、自分も逃げないといけないのに大変。そこは事前にシステム化していただきたいと思います。</p> <p>入院していたり、施設に入居しているというのはケアマネさんや訪問看護、訪問介護の事業所は絶対に把握しています。要援護者に入ってくる方は、必ず何かしら誰かついてるはずなので、そこからの情報は必ずタイムリーな形で得られると思うのですが、今回の見守り体制イメージ図の中に、ケアマネさんやその事業所は絡めてはいかないんですか。難しい話なんではないでしょうか。</p>	石田委員	<p><嶋原 保健福祉課長> 事業所さんに協力いただける部分もあるかと思いますが、実際にはサービスとして入られていますので、直接見守りをお願いすることにはならないと思います。</p>		
17	<p>災害時や、その患者さんに何かあったときの連絡事項伝達について、その一人を探したり、その一人の情報を得るために、いろんな人がいろんなところから同じ情報を得ようと電話がかかってくる。何件も何件も同じところからかかってきて、その対応をしないといけない。では、どこからどの情報を一元管理したらいいのか、災害のときに毎回議論になるはず。これは大正区に限ったわけではなく、大阪府でも例えば北部地震のときに、1個の事業所に4件も5件も同じことを聞きにくるんです。そういうのは、時代的に正直おかしいし、今からこうやって組み上げていこうと思うのであれば、そこらを回避できるのではないのでしょうか。</p> <p>あと、訪問看護師さんや介護士さんも、必ずその人たちの安否を確認するし、必ずケアマネさんなど、誰かが情報を持っているので、それを地域の人に流すことは結構簡単なことじゃないかと思うし、連携するべきじゃないかと思いました。</p>	石田委員	<p><嶋原 保健福祉課長> 連携については、個人情報の関係もあるかとは思いますが、今後考えていく部分かと思っています。</p>	要援護者名簿については、施設等入所者は対象外となっておりますが、今後地域が見守り活動を行う中で、情報（年1回の更新）が必要な場合があるかと思っておりますので、訪問看護事業者やケアマネジャー等と連携が必要と考えております。連携の手法については、今後検討してまいります。	保健福祉課（福祉）

【当日出された意見等】

	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
18	<p>要援護者の個人情報の取扱いに関する協定書の第3条（個人情報の提供）14番について、「使用医療機器は難病患者に限る」と書いてあるんですが、これは何ででしょうか。難病患者でなくても人工呼吸器はついてますし、そうでない方は、在宅酸素を吸っていたり、酸素ボンベが家にあったりだとか、いろんな状況が発生すると思うのですが、使用医療機器は難病患者に限るという立て付けは危ないなという感触があります。</p> <p>そういうことに絡めていうと、災害時のトリアージの話になってくると思うのですが、私は訪問看護ステーション、大阪府訪問看護ステーションの災害対策推進委員会で5年ぐらい大阪府の訪問看護の在宅患者さんのトリアージの点数のつけ方を策定し、大阪府と一緒にやってきました。</p> <p>まずどの人に声をかけにいかないといけないとか、この人を見にいかないといけないという点数化は必ず必要だと思います。それは災害時や有事ではなくても、その点数を基にお声かけをしに行く順番や、優先度というのはつけられると思うので、事前の優先度のトリアージというのは必要じゃないかと思っており、そのトリアージの仕方の点数化は聞いていただけたら提供できます。</p>	石田委員	<p><嶋原 保健福祉課長> 第3条14番は区役所が把握している情報であることから、難病の方につきましては、この形で書いています。それ以外につきましては、情報を持っていませんので、書かれていません。</p>	<p>平時における要援護者の日ごとの見守りや、災害時における要支援者の援助のために、優先度を決定することは非常に重要であると考えます。 優先度につきましては、各地域での話し合いにより決定いただくことが基本となりますが、そのノウハウがないと困難と思われるので、要望がございましたらご教授いただけますと幸いです。</p>	保健福祉課 (福祉)
19	<p>つい最近あった事案ですが、健在でおられた御夫婦が、御主人の下半身が不自由になって施設に入られて、奥さんも大きな心臓手術をして、そのときに推進員、民生委員の方と一緒に家に行き、奥様が大変なので緊急電話をつけました。それからしばらくすると、午前6時半ごろに大正消防署から、「どこそこのお家から緊急電話が入り、すぐ行きますので恐れ入りますが行ってもらえますか」とうちに電話があり向かいましたが、実際には怖くて入れませんでした。どういう状態で緊急のボタンを押して倒れたか分からないし、怖くて扉を開けることができませんでした。</p> <p>消防の方が入ると、たまたま扉を開けたまま、玄関で倒れておられたので、本当によかった。もし鍵がかかったままで、例えば、緊急電話だけして自分の寝室で倒れておられたら、こじ開けなければいけない。もし中からチェーンでもしていたら、それこそ扉を潰してでも入っていくのかというような心配が実際に起こっています。こういうこともまた今後、考えていかないといけないんじゃないかと思います。</p>	北川委員	/	<p>早朝からご対応いただきましてありがとうございます。 緊急事態の際に家に鍵がかかっている場合のことを想定して、可能であるならば地域や家主、ご本人などと事前で決めて（壊した場合の補償の有無など）おけば、スムーズに対応が行えると思います。</p>	保健福祉課 (福祉)

議題2「要援護者に対する日頃の見守り体制づくりについて」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
20	<p>担い手さんを増やすのは本当にしんどくて、多分地域の方、民生委員さん、ネットワーク委員さんがかなり頑張っていると思う中で、ここをまた増やすのかというのが、どんどん負担になるところです。例えばケアマネさんの事業所とか、ヤクルト販売とか、新聞販売店の方、郵便局の方との見守り協定の様な形で、要援護者のはさま、なれない方の日ごろの見守りというのと一緒にイメージ図の中に入れてもいいのではと思いました。</p> <p>私も医療機関に勤めていて、治療を中断している患者さんが1か月たっても来ないので、電話をかけたり、訪問したりしていました。1回目の訪問時は出られなかったんですが電気がついていて、大丈夫だと思って帰ったところ、もう一度訪問したら、手紙がポストにたまっていました。前とは全然様相が違ったので、一応管理会社さんのほうに「この人どうなってますか」と聞くと、入院するかもと言っていたので入院してるのではと回答があり、そのまま私も勝手に安心してしまっただけです。それから2週間後ぐらいに警察から電話がありまして、家の中で亡くなられていたということでした。死後、随分たっていたと言っていたので、多分私が最後に訪問したときは、もう既に中で亡くなられていたと思うんです。一人や、一医療機関で見守ることの限界というのを今回、その事例で感じたので、是非いろんな地域の方や、企業、行政含めて見守り体制を作っていくかと思っております。</p>	姉川委員	<p><嶋原 保健福祉課長> 大阪市全体、一部区でもそういうライフライン関係の事業所と協定を結んでいきます。連絡があれば、関係機関や地域の方などと現地確認など対応をしています。ただ、物を壊して家の中に入っていくというのはハードルが高く、地域包括支援センターや区社協、地域の会長さんや町会長さんや見守り推進員さんなど関係する方と相談し、また警察・消防の方とも連携し対応しているケースもあるかと思っております。</p> <p><村田 副区長> とてもいい御提案だと思います。 ヤクルトさん、郵便局さんや新聞配達さんとか、そういう方々と大阪市でも協定を進めながらやっていると思っておりますし、こういった業種以外でも連携できるところが多分あると思っております。 そういう事業者さんと連携しながら、とんとんと扉をたたいて、「元気ですか」と言うだけではなく、おっしゃっているように洗濯物とか、あるいは新聞がたまっているとか、そういうのも含めての見守りなのかなと思っておりますので、その見守りの方法を地域の皆さんと勉強できたらなと思っております。</p>	回答済み	保健福祉課 (福祉)
21	<p>独居の方は、地域でどんなことがされているのか、その情報すらも入ってこないです。より内に行くような形で、なかなか地域の身近な情報すら知ることができない。そういう情報のリストが医療機関などにもあれば、そういう方にこんな配食サービスがあるとか、100歳体操をやっていると、すぐに紹介ができて、社会的孤立もなくなっていくのかなというのが、今日の議論を聞いて思いました。うちの所長が掲げている社会的処方というのがありますが、先生が薬を処方するのではなく、社会的資源を使って患者さんたちの健康感をよりよくしていく、体をよりよくしていくものです。</p>	姉川委員		<p>大阪市では、生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加の促進を図るための仕組みづくりを目的に生活支援体制整備事業を区社協に委託して実施しております。その事業の中で、地域で行われるさまざまな情報を各戸配布により周知しております。 ご意見のとおり、医療機関にも周知することは可能ですので、今後、周知してまいります。医療機関におきましても、対象となる方がいらっしゃいましたら、ご案内をお願いします。</p>	保健福祉課 (福祉)
22	<p>要介護者の見守りについて、例えば住んでいるマンションの中で若い方が声かけするという機会はないでしょうか。そういう方以外にも、見守り隊や、同じ住居の中で声を掛け合っていることはできないのかなと思いました。</p>	柘委員	<p><村田 副区長> そういう体制があれば非常にありがたいです。 地域でお話をお聞きすると、どこも今、見守りを民生委員さんや見守り推進員さん、ネットワークさんがされているということで、実際に体制を組むのに非常に悩んでいらっしゃると思います。 そういった辺りの実情や連携方策について、地域の会長さんたちの御意見とか、感想を聞かせていただければと思います。</p>	<p>そのような体制が地域で構築できるよう、区役所・区社協が連携、支援してまいります。</p>	保健福祉課 (福祉)

議題2「要援護者に対する日頃の見守り体制づくりについて」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
2 3	<p>見守り自体は、何年か前から協定を結んでスタートしてほしいというお話が区役所や社会福祉協議会からあって、かなり悩んだ時期がございました。</p> <p>まず個人情報扱うのでどこまで共用できるか。まちづくりの委員長が名簿をいただきましたが、実際にその名簿を生かしてどういう活動ができるかということ、とてもじゃないけど一人や二人ではできない。そうすると各地区で日ごろの見守りを行っている民生さん、推進員さんの方たちと情報が共有できるのかどうか。それ以外のところで、どこまでのところに情報をオープンにできるのか。各町会単位だったら、町会長だけで済むのか、班長さんまで広げるのか。そういういろいろなところについて、行政がどう考えているがまだ見えないです。</p> <p>今回もいろんな意味で個人情報、プライバシーの問題ということをかなり皆さんおっしゃっていますけれども、それがあるだけに、結局、協定を結びましたが、実際にどういう活動ができるかということが一番悩みの種です。</p>	大石委員	<p><嶋原 保健福祉課長></p> <p>個人情報につきましては、名簿管理者を協定書の中で定めます。また、民生委員については、別途締結している協定書上で、すでに名簿管理者となっていることから、相互間での情報共有は可能であると考えています。</p> <p>確かに言われてますように、個人情報でありますので、みんなで手分けして見ていくということでありましたら、全部の情報を見てもらわなくても最小限の情報を提供することもできると思いますので、今後一緒に考えていきたいと思っております。</p>	回答済み	保健福祉課 (福祉)
2 4	<p>手を挙げている該当者が仮に10人や20人という人数であれば、比較的その対応もできると思いますが、鶴町の場合300数十名が手を挙げています。そうしたときに、どのような形で見守りなり、仮に災害時のときにどう対応するかということになると、答えが出ないです。仮に300人に対してマンツーマンでも300人スタッフがいるわけです。手を挙げている方が、今の協定書の中に入っているように障がいがある方や、認知症、いろんな弱者の場合だとすると、多分マンツーマンでは無理だろうと。2人で見ると、3人で見るとということになってくると、天文学的数字になってしまって、とてもじゃないけど町会の地区の世話役では対応できない。そののところもまだ行政が、どこまで踏み込んで地区に協力を求めているのかというのが、もう一つ私には見えてこないで少ししんどいなと思っています。</p>	大石委員	<p><嶋原 保健福祉課長></p> <p>災害時の見守りで避難支援となったときには、日ごろ見守りをされている方だけでは実際には難しいと思いますので、そこは今後どうしていくかしっかりと考えていくことかと思えます。実際に災害が起こったときに、まずは自分の身を守り、それから御家族の身を守ったうえで、例えば、小学校に避難したときに、日ごろ見守りをされている中で、この人来ていないとなったときに、そこにおられる方と一緒に家に行くということも可能であると思えますので、今後、一緒に考えていきたいと思っております。</p> <p>ただ、保健福祉課としましては、まずは日ごろの見守りをどうしていくのか一緒に考えたいと思っております。</p>	<p>回答済み</p> <p>(第2回区政会議にて「自力で避難することが難しい方達への災害時の避難支援」について議論いただく予定です。)</p>	<p>保健福祉課 (福祉)</p> <p>地域協働課 (防災防犯)</p>

	意見内容	委員名	回答	対応	担当課
25	<p>民生委員や女性団体協議会の方の仕事内容が少し分かり、業務の一端を聞くだけでも大変さがよく分かった。区役所担当者が把握していない数字を即答できる等、問題意識の高さにも感心し、頭の下がる思いだった。死亡情報等のタイムラグは致命的。生産年齢人口の減少は確実に、各種業務の担い手の減少や高負荷化が進むであろう流れの中では、ITテックを大きな社会資本と捉えて、積極的に取り入れることで業務負荷が軽減でき、サービスの質が上がるのであれば導入を検討してほしい。少なくとも、個人情報の取扱いリスクの懸念のみで議論しないことは避けてほしい。高齢化が進んだこの地域でIT活用によるサービス向上に取り組む姿勢を見せることは大きな意義があり、区民や他地域向けの発信として大きなインパクトがあると思う。</p> <p>ご意見シートで集まった声も閲覧できるようにしてほしい。</p>	土井委員		<p>情報のタイムラグを少しでも減らせる方法を福祉局や区社協と協議するとともに研究してまいりたいと思います。</p> <p>ご意見シートでいただきました内容につきましては、区政会議終了ごとに意見と対応一覧を作成し、委員のみなさまに郵送にてお送りさせていただきます。</p> <p>対応について、新たなご意見や疑問点がございましたら、区政会議にてご発言いただければと思います。</p>	<p>総務課 保健福祉課 (福祉)</p>
26	<p>副区長の発言について、①人口が減少した理由→大きな工場が…の件 ②人口を増やす事が全てではないの件 ③各地域のSNSはご自身で広報紙で確認しろという件が乱暴だと思い、とても悲しい気持ちになった。質問の返答というよりは逆ギレ?と受け止めている。</p> <p>皆さんと一緒に考えていきたいという発言が多かった印象だが、いつ考えるのか?今じゃないの?と思う。</p>	角元委員		<p>人口減につきましては、大きな要因の一つをご紹介させていただきました。</p> <p>大正区の魅力向上を図るためには、人々の注目を集める仕掛けが必要であると考え、千島公園及び周辺一帯を活用した「マルシェ」及び利活用が見込まれる空家を巡る「空家まち歩き」を実施することとしており、その結果、大正区に住んでみたいと思う方々が増えていけばありがたいと考えています。</p> <p>その結果人口増に繋がらなくてもマルシェの参加者がそれぞれの地域において継続的に事業を展開したり、遊休不動産というマイナスストックがプラスストックになることで、例えば相続税路線価が上昇して大正区の価値が上がるということも魅力向上のひとつと考えており、どのような指標にすればいいのかをまさに今から委員のみなさまと考えていけたらと思っています。</p> <p>各地域のSNSにつきましては、現在運用されている二次元バーコードの一覧表を区役所のホームページに掲載を予定しておりますので、ご活用いただけたらと思います。</p>	<p>総務課</p>

【区長発言】

〔冒頭あいさつ〕

区政会議は、区民の皆様の意見を直接取り入れて区政に生かしていくことから、条例も設置してオール大阪、全区で取り組んでいる試みでございますが、区長会議の中でも、区政会議の活性化というのを本当に重要視されて議論が行われています。例えば、去年はオンライン化での参加も可とするなど、割と先進的な取組を一部入れております。それは御事情があっても自宅からの参加ができるなど利便性の部分もございますが、それよりも議論が活性化するという一番、区長会議としても大事なことに捉えて、この取組を行っています。

活性化の中では、例えば昨年からお話が出ているように、比較的若い委員さんは青年部を作ろうという勢いもございましたけれども、そんな形で内々にオフ会の議論も進められていると聞いておりますので、その活性化に向けた皆様の御協議、御熱意、本当にありがたく受け止めております。もしそのような機会があれば、私もどんどん参加させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

また、この場の議論だけではなく、分かりやすい情報発信という観点からも注目されております。これまで大正区の区政会議の資料は分厚くて何百ページもあり、何とかならないかという声が多かったです。昨年の年度途中から、概要版の形で整理をして非常に分かりやすい形で皆様にお配りする、あるいはホームページに挙げるなどの取組をしているところでございます。この辺も、二、三年前のものとは比べて大分見やすくなっていますので、ホームページ等を振り返って御覧いただき、確認いただければありがたいです。

区政会議の活性化と分かりやすい情報発信を進めた上で、よりよい大正区を目指して、職員一同取り組んで参りますので、よろしく申し上げます。

本日議題の「大正区運営方針の振り返り」について、大阪市はPDCAに非常にこだわっておりまして、プランを立てたものがどのくらい着実に実行されているか、されていないなら、その後どう取り組んだらいいのかという振り返りをするのがルールとして決められております。したがって、資料のつくりなどやや細かい議論にお付き合いいただくことを、御容赦いただければと思います。

もう一つの議題、要援護者に対する日ごろの見守り体制につきましては、要援護者名簿という形で地域に名簿を渡しながら、支援が必要な方をどうやって見守っていくかという取組を大正区としても進めています。支援が必要な方の社会的孤立や、いざ災害が発生したときに、どういうふうに手を差し伸べられるのかという観点から大きな課題になっております。その辺をどうやって円滑に見守っていくかという観点から御議論をいただきたいと、本日、議題に設定させていただきました。

こういうものを乗り越えて、ぜひ皆さんと一緒に安全・安心な暮らしのある大正区をつくり上げていきたいと思っておりますので、活発な御議論をどうぞよろしくお願いいたします。

〔閉会あいさつ〕

大正区の運営方針につきましては、いろいろご意見をいただきました。その前提として、角元委員から、若手で資料の読み合わせ、事前勉強をしたという心強いご紹介があり、その成果として、本日は皆様の活発な御議論が進んだことを、大変うれしく思っています。

南委員からは、地域の団体ごとの役割や事業・イベントの概要を一覧にしてほしいとご意見がありましたが、確かに、地域に入っていく入門編としては必要かもしれません。私も着任したときは、副区長から地域団体の一覧を全部レクチャーしてもらったので、そこから入っていくのが地域活動の取り付きにくさをなくすためには確かにいいのかもしれませんが、堀江委員からは、それなりに各町会、発信しているぞというご意見もありましたが、そのとおりだと思います。結局我々知らないんです。地域の掲示板や回覧板に書いてありますし、SNSまでやっていただいて、発信したくてしょうがないというぐらいの意気込みでやっている地域もあります。なかなか届かない。それに関しては、角元委員もおっしゃっていましたが、フォローしていただけるかどうかという入り口のところがまず大事で、そういう意味では周知の問題もあるかなと感じたところでした。

その後の人口減対策につきましては、さすがに皆さん事前勉強までしていただいたおかげで、とても議論が進んだと思います。マンションだけ増えてもいいのかという堀江委員の話もあり、工場誘致をしたらいいのかという話も出ていました。しかし、基本的に人口を増やしていくというのは、魅力あるまちでなければいけないので、私どもは、今年の区制90周年を機に、区内外の方に大正区のポテンシャルに気づいていただきたいということから着手することにしております。大正区に関わって投資をしてみたい、移住してみたいという方を増やしていくことも地道な努力かと思ひ、この秋から実施していく予定です。

また、大石委員からは、むしろ子供が少ないのは少子化だろうと根本的な話がありました。確かにそのとおりで、これは日本の国を挙げて何とかしなければいけない問題だなと思っております。

土井委員からは子育て世代を呼び込むことが大事ではないかという話がありましたが、そのとおりでございます。大正区は大正区版ネウボラという形で、地域で切れ目なく子供を育てていくという発想の元にやっております。大阪では塾代支援という事業があり、塾に通うお金にとっても充実した支援をしております。これと相まって、大正区では、例えば家庭教師のトライさんなど事業者と連携して、学力が遅れている方への補習のような形の授業もやっております。週2回で月1万円という格安で子供の面倒を見ていただいております。それが大阪市の塾代支援で全部賄ってしまうので、これは画期的なことだと思います。お金がなくても補習ができるということ、大阪の立派な施策としてチェックしていただきたいと思ひます。

次に、日ごろの見守りに係る議論について、仲田委員、松村委員から現実に見守っていただいているリアルなお話を聞かせていただきました。仲田委員からは、要援護者名簿をもらった方がいいが、これを宝の持ち腐れにしたいという非常にありがたいご意見をいただいております。高齢者の配食など、簡単な見守りからやっていくのもコツだということは松村委員とも共通のご意見でございました。

また、見守りは周知が大事という松村委員のご意見について、現在、特殊詐欺に気をつけるよう警察も声高に言ってる中、騙されるんじゃないかと思ひなかなかドアを開けてくれないという現状、そのとおりだと思います。やはり「こういう方が訪問される事業ですよ」という周知も大事だと実感したところでございます。

配食サービスなど簡単なところから声をかけることで、結構地域はうまくやっているという情報もありました。この辺は互いに顔の見える関係を作っていच्छる地域というのは非常に強いと思ひますので、是非引き続きお願いしたいと思ひます。

また、石田委員からは、今回の区政会議の先取りの議論をいただきました。つまり、災害時に支援が必要な方にトリアージの観点も必要であり、まさに災害対策基本法に定められている個別避難計画というものです。これは次回9月の区政会議で議論いただきたいと思ひます。個別に1対1でこの人をどう救っていくかという計画を立ててしまえば、それはトリアージに近いものになります。その個別避難計画の中に、ケアマネの情報、訪問介護の情報などを入れていけば、まさに石田委員のおっしゃったとおりになっていくと思ひます。是非、今回の議論で深めていただきたいと思ひます。

北川委員からは、リアルな体験談を踏まえた支援のご紹介もいただきました。柘委員からは、実際の見守り体制に工夫があるという次の大きな課題の提言もありました。大石委員からは、名簿をもらった方がいいが、本当に悩んでしまうという意見をいただきました。ずっと悩んできた中で、一歩踏み出していただいた鶴町地域の決断をお教えいただきましたが、個人情報を守りつつ進めていく会長さん方の地域の立場もすごく分かります。それでも一緒にやっていけたらと願っております。

姉川委員は、要援護者名簿にあがっていない方、あるいは地域で孤立している方というのは、情報を得にくい方もいるので、新聞やヤクルト配達などという形で地域密着型のものと協力していくという面白い提案をいただきました。大阪市でもやっているところはあると思ひますが、それを社会的処方という形で取り組んでいくのは面白い形だと思ひ、目からうろこの議論でございました。

以上で私の総括を終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。